

令和7年9月吉日

6年生保護者の皆様

南知多町立篠島小学校長

服 部 貴 史

令和7年度全国学力・学習状況調査結果及び今後の方策について

処暑の候、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、本年度4月17日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果データが、学校に届きました。また、結果を踏まえて、本校における学力と学習状況の傾向と対策をまとめましたので、ご連絡いたします。

つきましては、お子様を通じ、個人票および今後の対策についてのまとめを配付いたしますので、ご確認ください。なお、この調査結果は、毎学期のお子様の成績に反映されるものではありません。また、地域や学校間の比較をする趣旨のものではありませんので、調査結果の数値による公開は控えさせていただきます。

本校においては、調査結果も参考にしながら、児童の実態に即した“確かな学力”の定着に一層力を注いでいきます。引き続き、お子様の発達段階に即した基本的な生活習慣および学習習慣の確立に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】 教務主任 田中 一成 TEL: 67-2004

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の方策（篠島小6年生）

＜学力調査について＞ ○…よかった点、△…課題のある点

国語

○設問別で見ると、「漢字を使って書く」問題において、全国比でよくできていました。これは、「漢字の書き取り」について、日常的な書写指導や反復練習などの取組の成果が表れたものと考えられます。内容別・観点別では、「知識及び技能」の「書くこと」に関する技能が向上しており、基礎的な書字能力の定着が進んできていることが伺えます。

△設問別で見ると、「資料を読み取り、空欄に当てはまるものを適切に選択する」問題において、正答率が全国平均と比べて特に低い結果となりました。内容別・観点別では、「思考力・判断力・表現力」の「読むこと」に課題が見られました。思考を深めながら読み取る力や、情報を的確に整理・理解する力の育成が求められています。

今後は、説明文や資料など、さまざまな情報を読み取る学習を通して、必要な情報を見つけたり比べたりしながら理解する力を育てていきます。また、国語だけでなく、他の教科でも文章を読む力が必要となるため、全体的な読解力の向上を目指して指導を進めてまいります。

算数

○設問別で見ると、「5つの図形の中から台形を選ぶ」「異分母分数の計算」に関する問題において、全国平均を上回る正答率を示しました。領域別では、「数量の関係を式に表す」「小数のわり算」など、数と計算の領域がよくできており、「知識・技能」の面で基礎的な計算力や図形の見分け方が定着してきていることがうかがえます。

△設問別で見ると、「目的に応じて適切なグラフを選択し、その理由を記述する」や「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を説明する」などの問題において、全国平均を下回る正答率となりました。また、「思考力・判断力・表現力」が求められる問題に課題が見られ、特に「測定」の領域での誤答が多く見られました。

今後は、面積や体積などの求め方について既習事項を含めて繰り返し扱いながら、考え方のプロセスを意識させる授業づくりを行っていきます。また、データの活用については、児童が目的に応じて適切なグラフ形式を選び、説明する力を育てるために、実生活と結び付けた問題や視覚的な教材の活用を進めていきたいと考えています。

理 科

○設問別で見ると、「正しい実験方法についての記述」「電気回路」「水の温まり方や蒸発・結露」に関する問題で、全国平均を上回る正答率となりました。これらは、日常の授業の中で観察や実験を通して体験的に学んできた成果であり、知識の理解や活用が進んでいることがうかがえます。領域別では「粒子」「地球」に関する内容がよくできており、理科的な見方・考え方方が定着してきていると考えられます。

△「ヘチマの受粉」「発芽の条件」など、生命に関する単元での正答率が低く、全国平均を下回る結果となりました。特に、身近な生き物の仕組みや成長について、知識を基に理由を説明する問題での誤答が目立ちました。

今後は、生命領域における知識と理解を確実にするために、実物や映像資料を活用した観察・記録活動を充実させるとともに、自分の言葉で説明する力を養っていきたいと考えています。また、実験や観察の場面で得た気付きや疑問を大切にし、「なぜだろう」「どうしてこうなるのか」と考える学びを広げていけるよう、指導を進めてまいります。

生活習慣や学習環境に関する調査について

令和7年度の全国学力・学習状況調査における児童アンケートの結果から、児童の学校生活や学習への意識について、前向きな面と、今後ご家庭と連携して取り組んでいきたい課題の両方が見えてきました。

○「人が困っているときは進んで助けてあげたい」「ICT機器を使って情報を整理することができる」「理科の勉強が好きだ」と答えた児童が多く、自分の役割を果たそうとする前向きな気持ちや、ICTの活用への自信、理科への興味・関心の高さがうかがえました。これらは、日々の学習活動や、協働的な学びを通して育まれている力の表れと考えられます。

△「毎日同じ時間に起きている」「友達関係に満足している」「国語が好きである」「読書が好きである」と答えた児童が少なく、生活習慣や人間関係、学習への関心の面で不安が見られました。特に、規則正しい生活リズムは、集中力や学習意欲にも大きく影響します。また、読書や国語への苦手意識があることも、他教科での学びにもつながる「読む力」の伸びに影響を与える可能性があります。

ご家庭でも、お子さんの毎日の生活リズムや学習習慣、読書の時間の確保などについて、今一度見直していただくとともに、お子さんの気持ちに寄り添いながら声を掛けていただけたとあります。今後も、学校とご家庭とで連携しながら、子どもたちが安心して過ごし、自分の可能性を広げていけるよう支援してまいります。